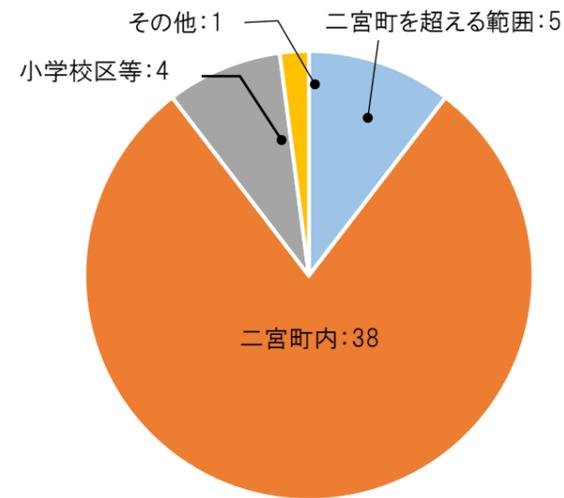


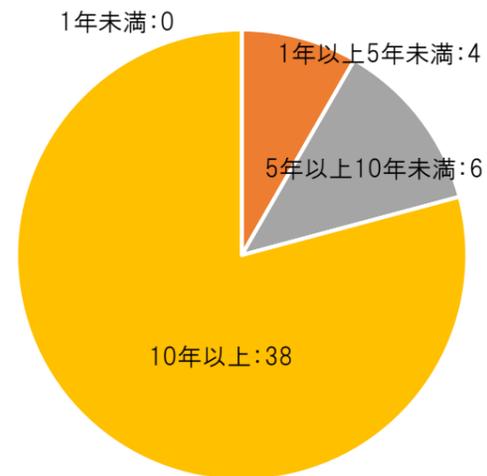
活動団体アンケート 回答団体の概要

○この「活動団体アンケート」は、48の活動団体に回答いただきました。その団体概要は以下のとおりです。
○次ページ以降に活動分野ごとにご意見を整理しています。

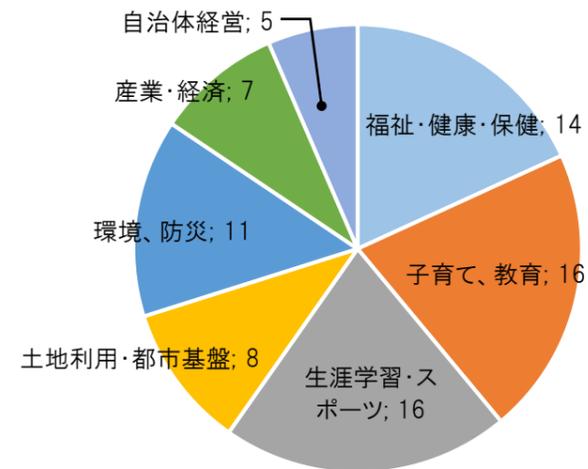
◆主な活動場所



◆活動年数

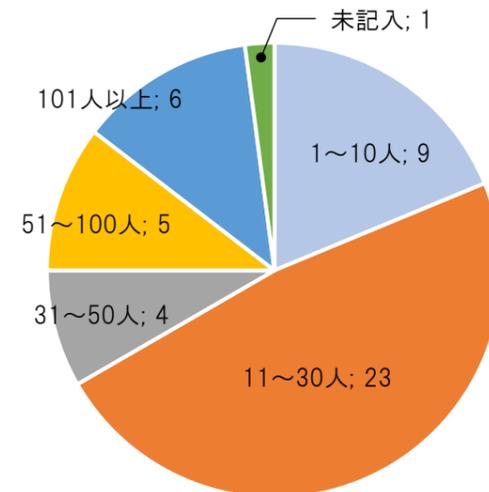


◆主な活動分野



※活動分野は、1つの団体で複数分野に関わる場合があるため、団体数とは一致していません。

◆会員・構成員数



二宮町のまちづくり全般に対する意見・アイデア

◆町の将来ビジョンに関して

- 恵まれた自然環境と生活環境を生かし、人と人とのつながりや支え合いを大切にしたい町とする。
- シンプルで便利な町、生産性が高い町、そしてアンダー20とアッパー70が生き生きと暮らす町とする。

◆人口減少の抑制に関して

- 空き家バンクを利用して安価に住宅を提供。
- 在宅勤務しやすい環境整備。
- 「健康長寿の里二宮」のブランドを活用し、まちづくりを広域化する。

◆土地利用に関して

- 空き地や空き家を利用し、みんなが気軽に集える場所を増やす。
- 東大果樹園跡地の魅力を活かす事業者募集のプロポーザルを実施する。
- 人の温かいこの町ならではの住みやすい環境を維持する。
- 企業や大きなスーパーを誘致するだけで町としての魅力は増す。(ex. ICTを駆使した未来都市の検証など)
- 吾妻山だけでは菜の花や桜の時期に限られるため、葛川を活かした取り組みを行う。
- 分散している町の施設を新庁舎に集約し、一か所で用事が足りるようにする。
- 町有地の開発に際し、大学や専門学校生によるコンペを開催し、若い世代の共感や意欲を喚起する。
- 長期視点とスピード感を持った駅周辺の再開発も必要。

◆施策の決定・取組みの体制に関して

- 時代に即して、迅速な施策決定と実行が良いてできる体制とする。
- 行政と議会の連携を強化し、重要案件を推進する。
- 自然災害時における隣接市町村との連携など、行政連携による広域サービスを念頭に置いたまちづくりを考える。
- 小さな町らしい、家族的で機動的な運営体制とする。
- 周辺自治体の取組みを上手に入れ込みながら、情報を吸い上げる力とそれを必要なところに落とす力が必要。
- 財政状況が悪いからと削減しか考えていないように見える。どうすればできるかを考えるべき。
- 担当部署によらないプロジェクトチームを設置する。
- まちづくりの柱になる具体プログラムを部門ごとに策定。(ex. 多様性を認め合う町、ちょうどいい町二宮)
- すべてのことに町民参加型・学校参加を意識する。
- 行政の制度や用語には、とっつきにくく分かりづらいものが多いため、親しみやすいものとする。

◆町民活動に関して

- 町民活動の活性化により、町と町民が自立した関係を築き、まちづくりへの大きな力になることを期待する。
- 移住者と先住者との交流の場を設け、たわいない会話の中からまちづくりに生かせるアイデアを見出す。

◆町職員の対応に関して

- 今後も、町民に対して「丁寧」「やさしさ」を意識して接してほしい。
- 政策も大切だが、日々の迅速な対応を行うことで町の姿勢が評価される。
- 職員研修として、町内の団体に参加し、活性化させることを団体と一緒に取組む。
- 政策・取組み等、町民に分かりやすく優しさを持ったまちづくりに期待。
- 職員交代制による総合窓口対応で町の課題を感じる。
- 現状では不都合なアイデアや活動について、こうしたら出来るかもという行政側からのアイデアや提案があると助かる。

《福祉・健康・保健分野》

◆アンケートに回答いただいた活動団体数：14団体

活動を通して感じる町の現状

◆適度な町のスケール感

- コンパクトで住みやすい町と感じている人が多い。
- 町の規模に対して体育施設が多くて良い。

◆住民の高齢化と会員・参加者の減少

- 住民の高齢化が進んでいる。
- 各団体とも高齢化が進み、会員数の減少に悩んでいる。
- 高齢化と人口減少でイベントを行っても人が集まりにくい。
- 会議や集まりの場に参加すると若い方の姿を見かけない。
- 地域によって「通いの場」への参加数に違いはあるが、参加者が限られており、高齢者の参加が中心となっている。
- コンサート開催が町の定例行事として定着し、町民に受け入れられてきているが、若年層の参加が少ない。

◆活動の認知と効果

- 団体の存在自体の認知が低いと感じる。
- 活動への熱意が感じられない。
- 各団体が持ち場に定着してしっかり活動していると思う。
- 手話の認知度は高まっているが、聴覚障がい者への理解が高まると良い。

◆行政との連携と支援

- 近年は特に町職員の方々とも意見交換ができ、情報共有ができ始めている。細かな配慮を個々にしていただいていることに感謝。
- 障がい者への支援は、以前より充実してきている。
- 高齢者の活動の場はあるが、障がい者の活動の場が少ない。

活動にあたっての課題

◆地域活動に対する行政支援・協力

- コロナ禍での活動に対し、手指消毒、掃除、用具の消毒等の指導徹底。
- インボイス制度導入による利用料金値上げへの対応。
- 個人情報公開の柔軟な対応。
- 民生委員と各団体とのより一層の連携。個人情報保護法により、横の連携までがストップし、民生委員とも交流がなくなり活動しにくい。
- 担当が変わっても情報共有のできる体制の継続。
- 障害のある方の居住拠点（グループホーム等）の充実。
- 専門職のコーディネーター配置による、町民ニーズ把握・情報発信・新規活動の組織作り等、主体的動きが出来るような支援体制の整備。
- 移動に困難を抱えている会員を見据えた移動支援の充実。
- 貴重な野鳥生息地である吾妻山（特に中里口）の自然環境の維持。
- 町民の持っている力を発揮できる場の提供や支援体制づくり。
- 団体活動の町民へのアピール機会の創出。
- 「町民活動センター」や「ボランティアセンター」を核とし、町民ニーズの把握・情報提供や活動につなげる等のコーディネートや支援。

◆地域活動の充実・魅力向上

- リーダー及び有能なコーディネーターの養成。
- 参加者がやりがいや楽しさを感じられることが大切。
- 横のつながりを強化し、様々な団体と協力して活動することが大切。
- 町民個々の能力が発揮でき、充実感を持てることが重要。
- 町・教育委員会・団体が協力し、定期的なPRイベントの開催。
- プール施設の運営継続と水泳普及による水難事故の軽減。
- 公共の場における手話対応者の拡充。

◆地域活動への参加向上

- 民生委員の高齢化により人手不足が深刻な問題。
- メンバーの高齢化が進んでいるので、若い人の参加が必要。
- 未病センターによるエビデンスがとればよりやる気に繋がる。
- 定年延長や嘱託勤務等で勤務年齢が延長し、落ち着いて地域活動ができる人が少なくなっている。
- 役員の固定化、自治会未加入者の増加も課題。
- 団体会員の拡充に向けた、イベント活動等の充実。

課題解決に向けた具体的な取組み

◆地域活動のPR機会の創出

- 短期講習会等を町で音頭をとってもらい実施できると良い。
- 「ラディアン開館20周年」のような行事を増やしてほしい。
- 町内の障がいのある方への団体活動周知に協力してほしい。

◆地域活動への町の支援

- 活動団体の中で、町の進む方向とマッチしているものには補助して、育てる。
- 「見守り隊」「アクティブクラブ」のような活動を通じて、子どもたちと関わることで活発化につながっている。
- コミュニティ・スクールを活用し、学校の中に地域の方々が多く活躍できる取組みが増えることに期待。
- 町民センターへのエレベーター設置など、すべての人が参加しやすい環境づくりが必要。
- 学校に出向いて聴覚障がいについて理解を深める活動が出来ればと思う。

◆町及び活動団体間の交流・連携

- 町担当課との定例打合せを再開してほしい。
- 「身近な相談役」「町へのつなぎ役」の意識で活動しており、専門的なことは町の担当に任せるなど、町と活動団体の役割分担を行う。

◆新たな活動へのアイデア

- 歩こう大会（距離が異なるコースを決め、自分の体に合わせてコースを選び、歩く。決められた時間内に歩ききる。）
- もっと若い世代（例えば小中学生）にも、福祉に興味を持ってもらうために体験会を開催したい。
- 吾妻山の町役場口の途中に、権現山（秦野）のようなバードサンクチュアリを作り、観察用シェルターを設置すれば、大勢のバードウォッチャーが来ると期待される。
- 「通いの場」への参加が難しい方が個人宅等にご近所数名で集まり、健康づくり体操DVDを見ながら運動をする機会を作る。
- スポーツ施設を充実し、活動を継続。
- 全国大会、関東大会、県大会等の文化・スポーツ入賞者への表彰制度の導入・明文化。

《子育て・教育分野》

◆アンケートに回答いただいた活動団体数：16団体

活動を通して感じる町の現状

◆過疎化、住民の高齢化と会員・参加者の減少

- 若い世代の家族が少なく、過疎化が進む町。
- 各団体とも高齢化が進み、会員数の減少に悩んでいる。
- 数年前までは子ども中心の団体だったが、少子高齢化により会員の減少が止まらない。
- 活動に参加してくれる大人が少なく、メンバーが固定化しがち。基本的には協力的で、新しい取り組みも見守ってくれる人が多い。
- 少子化や核家族化、地域との繋がりの希薄化等により出産・子育てへの不安や孤立感を持つ子育て世帯が増加傾向にある。
- 定年延長や嘱託勤務等で勤務年齢が延長し、落ち着いて地域活動が出来る人が少なくなっている。
- 民生委員が高齢化し、人手不足が深刻な問題。

◆活動の認知と効果

- コンサート開催が町の定例行事として定着し、町民に受け入れられてきたと感じている。
- 校内に花を飾ることで、落ちつきや心のゆとりが出てくる。かつては問題行動も見られたが今はなくなり、生徒も礼儀正しくなったと思われる。
- 町の小中学校が「地域と共にある」「地域に開かれた」学校となることの本質的な理解が行政にも町民にも足りていないと思う。
- 児童の見守り活動を通して、安心して登校できる環境が生まれ、挨拶を返す子供も増えてきた。
- 「見守り隊」「アクティブクラブ」のような子どもたちと関わることが活発化につながっていると感じる。
- 学校運営協議会は全校に設置され、活動も活発化してきているが、その意義やメリットを活かせていない。

◆各種団体や行政との連携

- 近年は特に福祉課の方々とも意見交換ができ、情報共有ができ始めている。細かな配慮を個々にしていただいていることに感謝。
- 各団体がそれぞれの持ち場でしっかり活動していると思う。

◆活動の停滞による町の魅力低下

- 小さい町ならではのイベント、企画等がなくなり魅力が低下している。移住してきてほしいがお勧めのメリットがない。
- コロナ禍のため活動できていない。

活動にあたっての課題

◆地域活動への参加向上

- 若年層の参加が少なく、学校教育も含めて、若年層の参加向上を図りたい。
- 役員の固定化、自治会未加入者の増加も課題。ただ、今の自治会や地区会の運営がいつまで持ちこたえられるか。
- 町民個々の多様な能力を發揮し、充実感を持てることが重要。そうでなければ、魅力的で主体的な町民活動とはならない。

◆町の課題とビジョンの明確化

- 今一度、行政と町民の協働という視点を取り入れながら、より多くの町民が参加できるような町民活動を展開する必要がある。
- 待機児童の発生、子どもの貧困など、子育てをめぐる環境は厳しさを増しており、継続的な支援や多様な機関が連携した対応の必要性が高まっている。
- 一貫した具体的なビジョンを明確に示すことが必須。町では、どんな教育が受けられ、どんな子ども達を育てていこうとしているのかを内外にアピールすべき。
- 活動を始めたころは、ゆとり教育により花の講座等も学校の依頼で行っていたが、それが見直され、花を扱う授業もなくなり残念。
- どのような方向性で町の教育を進めるのか、将来的なビジョンが見えない。学校もPTAも組織が変化するには突然だと反発も苦労も発生するため、現状と最終形のすり合わせをしながら、数年かけて取り組むべき。
- 学校や団体任せではなく、町として目標に向けて積極的に行動する必要あり。
- 団体の活動は、中学生のためにいかに価値を上げるかを主眼としており、町の課題と直結していない。
- 魅力あるまちづくりのためのビジョンを協議すべき。団体等も含め一緒に決めれば、方向性にあった活発な活動が行える。

◆地域活動に対する行政支援・協力

- 町は、個人情報公開に対して非協力的であり、活動に制約が生じる。もう少し柔軟に対応できないか。
- 妊娠から出産・子育て支援、子どもの貧困対策、ひとり親家庭の自立支援など、子どもの成長段階に応じた支援が必要。
- 「町民活動センター」や「ボランティアセンター」を核とし、町民ニーズの把握・情報提供や活動につなげる等のコーディネートや支援が日常的に行われるべきだが、専門員の人的配置もなく、実態は施設管理だけとなっている。
- 町をあげた文化・芸能の継承についてPRをお願いしたい。
- 町の限られた財政の中で、今後、地域で障害のある方がどこに拠点を置いて住み続けることができるか（グループホーム等）。
- 他団体とのつながりが個人頼みのため、協力できる仕組みがあると良い。

◆各団体間の横の連携強化

- 役員レベルでの他団体との話し合いも必要。
- 各団体に格差が生じている。横のつながりを強化すべき。
- 民生委員と各団体との一層の連携が必要。必要な情報が伝わっておらず、先が見えにくい。個人情報保護法により、横の連携までがストップし、民生委員との交流が無くなり活動しにくい。
- 学校を越えた活動もよいと思うが、各校が独自でやることも大事にすべき。
- 同様の活動をしている団体との連携ができる環境整備。

課題解決に向けた具体的な取り組み

◆活動連携の体制づくり

- 専門職のコーディネーターを配置し、町民活動のニーズ把握・情報啓発活動・新規活動の組織作り等、町民の主体的動きが出来るような支援体制を整えてほしい。
- 地域学校協働活動推進本部の設置。
- 「身近な相談役」「町へのつなぎ役」の意識で活動しており、専門的なことは町の担当に任せるなど、役割分担を行う。
- 町に求められているのは、町民の持っている力を發揮できる場の提供や支援体制づくりだと考える。
- コミュニティ・スクールを活用し、学校の中に地域の方々が多く活躍できる取り組みが増えることに期待。
- 担当が代わっても情報共有のできる体制でいてほしい。
- 既存組織の形骸化した活動の見直し、統廃合。町全体を俯瞰し、団体の課題や方向性を踏まえて上手く団体を繋げる。

◆地域活動への町の支援

- 有能なコーディネーターの育成。
- 町が主体の活動に各団体が参加できるものがあると良い。
- 活動団体の中で、町の進む方向とマッチしているものには補助して、育てる。
- 若い方にも活動に参加してもらえるよう、広報でアピールしたい。
- 支援を総合的に行っていくため、子ども・子育てに関わるさまざまな人や組織等の連携を促進及び強化することが大切。
- 活動することのメリットを作る。
- 団体が活動しやすいよう、公共施設の利用や補助金、広告への協力などのサポートを行う。（子ども活動基金等の補助金制度など）

◆地域活動のPR機会の創出

- 「ラディアン開館20周年」のような行事を増やしてほしい。
- 町・教育委員会・団体が協力し、音楽教室のようなものを定期的で開催できないか。
- 町民や多くの人が集まる場での演奏など、露出機会が増える取り組みを行う。
- 大小関係なく、町中の活動についてHPやSNSで逐一発信する仕組みをつくる。

◆新たな活動のアイデア

- 吾妻山に権現山（秦野）のようなバードサンクチュアリを作り、観察用シエーターを設置すれば、大勢のバードウォッチャーが来ると期待される。
- 全校協働で行える体験型実践教育（環境、自然、多文化、多様性、農業、ICTなど）の実施。

《生涯学習・スポーツ分野》

◆アンケートに回答いただいた活動団体数：16団体

活動を通して感じる町の現状

◆適度な町のスケール感

- 適正規模で無理なく運営できている。旧中郡でも伊勢原と大磯・二宮では差がつかないと感じる。
- 体育施設が多くて良い。

◆過疎化、住民の高齢化と会員・参加者の減少

- 若い人がヨガやベリーダンスを始めているのは頼もしいが、高齢化の割に文化活動に参加する高齢者が少ない。
- 高齢化と人口減少でイベントを行っても人が集まりにくい。
- 数年前までは子ども中心の団体だったが、少子高齢化により会員の減少が止まらない。
- 会議や集まりの場に参加すると若い方の姿を見かけない。
- 若い世代の家族が少ない過疎化が進む町。
- 町の魅力を支えているのは地元愛だと思いが、それを引き継ぐ人がなくなり、自然が危機的な状況であるとともに、地域資源が消滅している。
- 限られた財源とマンパワーの低下により、実施主体をスポーツ協会等町内の団体に移管せざるを得ない状況になりつつある。
- 町内には様々な能力のある人も多いが、その能力がまちづくりに活かされていない。

◆活動の認知と効果

- コンサート開催が町の定例行事として定着し、町民に受け入れられてきたと感じている。
- 校内に花を飾ることで、落ちつきや心のゆとりが出てくる。かつては問題行動も見られたが今はなくなり、生徒も礼儀正しくなったと思われる。
- 手話の認知度は高まっていると感じるが、聴覚障がい者への理解がもっとあってほしい。
- 団体の存在自体の認識が低いと感じる。

◆活動の停滞による町の魅力低下

- 活動への熱意が感じられない。
- 小さい町ならではのイベント、企画等がなくなり魅力が低下している。移住してきてほしいがお勧めのメリットがない。
- 子どもたちが興味・関心を持てるイベントや体験の場が少なくマンネリ化しており、現状打破が必要。

◆行政との連携

- スポーツ行政に係る団体として、町との相互に密接な関係を構築し、協力を継続している。

活動にあたっての課題

◆地域活動に対する行政支援・協力

- コロナ禍での活動に対し、手指消毒、床掃除、用具の消毒等の指導徹底。
- 子どもたちが興味を持って参加できるような企画や活動に対し、社会的影響やいじめ等のリスクを重視しすぎて活動が困難なケースがある。どうすればできるかがなく、世間体重視の思考が先行し、企画、活動の障害となっている。課題、問題解決やコミュニケーション向上のスキームやタレント能力醸成が必要。
- 主に町民センターを利用しており、本町では使用料がかかるが平塚市は無料。町民センターは安価で助かるが、ラディアンは高いので使用料の見直しを。
- 以前は水泳大会を行っていたが、施設利用料を徴収することになったので中止した。
- 活動存続のために生涯学習課が積極的に動いて欲しい。
- 町の関係人口を増やし、町内の人材を生かすための情報を相互共有する機会や取り組みをしてほしい。

◆町の課題とビジョンの明確化

- 活動を始めたころは、ゆとり教育により花の講座等も学校の依頼で行っていたが、それが見直され、花を扱う授業もなくなり残念。
- 関連団体が地域と密着した活動を地域の中からボトムアップしていく変革が必要。
- 学校や団体任せではなく、町として目標に向けて積極的に行動する必要あり。
- 活動団体が活発に活動するためにも町のスポーツ行政の方向性を明確にし、実現に向けた方策の立案が必要。町が主体、登録団体が主体、又は両者のハイブリッドなど、町のスタンスが明確でないように思う。
- 魅力あるまちづくりのためのビジョンを協議すべき。団体等も含め一緒に決めれば、方向性にあった活発な活動が行える。
- これからは地域に軸足を置いた活動に大きく舵を切る必要がある。地区長及び子ども会やスポーツ推進委員と連携し、地域に根付いた青少年の活躍の場を拡大していく取り組みが必要。

◆地域活動の充実・魅力向上

- クラブ自体が魅力的になり、一緒に活動したいという雰囲気を作る。
- 今こそ、町の魅力を掘り起し、伝えるとともに、町内の人材を活かす場や仕組みづくりが必要。
- 魅力的な事業の開発と広報の活発化を行う。
- リーダーの養成が必要。

◆各団体間の横の連携強化

- 各団体に格差が生じている。横のつながりを強化すべき。

課題解決に向けた具体的な取組み

◆地域活動への町の支援

- 公共イベント等に手話通訳を積極的に導入する。
- スポーツフェスティバルへのサポートをお願いしたい。
- 公園の清掃、花壇の植栽は町の事業にしてほしい。
- 活動団体の中で、町の進む方向とマッチしているものには補助して、育てる。

◆活動しやすい環境の充実

- どんな団体がどんな活動をしているか情報共有できる交流会や団体のスキルアップや課題解決となるワークショップを開催する。
- 規約を緩和し、責任の軽減、会費低減等により入会しやすくする。
- 関連団体の集会的イベントを開催し、特に青年層のコミュニケーションや自主性を課題とした取り組みをして若い層から活性化していく。
- 町民センターにエレベーターが設置されるなど、すべての人が参加しやすい環境づくりが必要。
- 町民センターでの飲食の許可により、活動の幅が広がる。
- 広域行政では施設の共有が行われているが、まだまだ不足している。市町村合併をも視野に入れた将来構想なくしては、本当の意味での団体活動の活発化には繋がらないと思う。
- 外部団体を招致しての大会が開催できる公共施設と来場者を受け入れる駐車場が必要。町内のみで完結する活動は、未来志向には程遠い。

◆地域活動のPR 機会の創出

- 学校に出向いて聴覚障がいについて理解を深める活動が出来ればと思う。
- 町をあげた文化・芸能の継承についてPRをお願いしたい。
- 「ラディアン開館20周年」のような行事を増やしてほしい。
- 町民や多くの人が集まる場での演奏など、露出の機会が増える取組を行う。
- 町や教育委員会と協力し、音楽教室のようなものを定期的に開催したい。
- 小中学生や高校生向けの聴覚障がいについての講座を開く等、子どもや若い人が参加しやすいイベントがあると良い。
- 魅力的な事業を開発、広報を活発化する。
- 広報等を通じてサークル活動紹介や通いの場での活動内容などを知らせる。
- 短期講習会等を町で音頭をとってもらい実施できると良い。

◆新たな活動のアイデア

- 東大果樹園跡地の将来計画を町民と共に作り上げ、まちづくりの交流拠点としての本格的な取組みに参加したい。
- 旧山川秀峰・方夫邸などの近代建築物の登録有形文化財化への協力をしたい。
- スポーツ協会の法人化を進め、スポーツ行政の一翼を担うことができるよう、組織の強化を行いたい。
- プール施設の運営継続と水泳普及を積極的に行い、水難事故を無くす。
- 青少年ボランティアを募集し、既存団体とのマッチングさせる仕組みを作る。

《土地利用・都市基盤分野》

◆アンケートに回答いただいた活動団体数：8団体

活動を通して感じる町の現状

◆住民の高齢化の進行と空き家の増加

- 住民の高齢化が進んでいる。
- 高齢化が進み空き家等が増加傾向にある一方で、一部空き家等の利活用も進んでいる。
- ボランティア参加者の不足により、活動への負担が大きくなっている。
- バス交通の利用者が減少し、今後路線バスを中心に公共交通網が衰退し、町の利便性が損なわれていく可能性が高い。
- 空き家バンク制度を設けているが物件の登録が少なく、利用が進んでいない。

◆適度な町のスケール感

- コンパクトで住みやすい町と感じている人が多い。
- 町の規模に比較して公共交通網等は充実している。

◆子育て世代の増加と地域への関わり

- 少しずつ子育て世帯も増えつつあり、地域にコミットする意識も高い。

◆見えない町の将来ビジョン

- 町全体のビジョンがよくわからない。

◆活動の認知度と効果

- 様々な活動団体が住みよい生活環境を目指して活躍していると実感しているが、各団体の認知度が低い。

◆公共施設の管理状況の低下

- 公園は町民の憩いの場として誰もが気軽に利用できることが大前提であるが、雑草が生い茂り、使えない状況も見られる。

活動にあたっての課題

◆町の課題とビジョンの明確化

- 狭い分野にとじこもらず、幅広い面での対応が必要。
- 団体活動の原動力である課題意識を広く住民と共有していくことが大切。
- 都市整備課への負荷が大きく、町のトータルデザインを、主体を置き去りにした整備と感じざるをえない。
- 課題として顕在化してきた交通弱者対策を地域住民とともに考えるための仕組み等について検討してほしい。
- 鳥獣被害に対し、生物多様性の観点だけではなく、町民、来訪者が安心して安全に外出できることが重要。

◆地域活動に対する行政支援・協力

- 町民一人一人の自覚を高めるためのアピール強化と人材の確保。
- 職員の方は皆真面目で親しみ易いが、もう少し枠を超えたダイナミックな動きに期待。
- 地域が乗ってきやすい積極的な町の働きかけ。
- 公園管理など、町だけでなく、地域住民を巻き込むようにし全体を活性化させる。

◆地域活動に関する情報発信

- 広報活動に力をいれ、様々な活動団体の情報発信を行うことが大切である。
- 回覧版を活用した情報発信の充実。（ボランティアの募集など）

◆利用しやすい制度づくり

- 空き家バンク制度の利用を促進するため、業者も含め利用者が使いやすい制度にするべき。

課題解決に向けた具体的な取組み

◆活動連携の体制・制度の構築

- 町担当課との定例打合せを再開してほしい。
- 何らかの形で御用聞きできる組織を構築する。
- サポートチームが部門を横断して相談に乗ってくれる仕組みとし、アイデアやテクニク、技術のコーディネートを行う。
- 今後、団体等に公園管理を委託するなど、財政面等の支援の拡充を図ってほしい。
- プロボノ（各分野の専門家が、自分の専門知識や経験を生かして社会貢献する活動）の活用。

◆地域活動への町の支援

- 地域団体等が活動しやすいよう、町は運営のアドバイスや補助等という形で後方支援をすることが大切。
- 運営資金難に直面しており、作業日数の見直しや作業の簡素化を期待。
- 各団体共通のツールは町の管理による貸出しを行う。
- インボイス制度の導入に向け、料金値上げで対応することが全国的に検討されており、決定された場合は対応をお願いしたい。

◆活動重要性の周知

- 公共交通の現状を住民に知ってもらい、公共交通を維持し続けるために様々な手法での広報活動をこれからも進めてもらいたい。
- 一部地域を先行事例とし、公共交通の乗り支えの意識向上や福祉面での移動支援等を住民レベルで進めていくため、路線バスの減便やコミュニティバスの改編機会を捉え、地域に出向いて意識啓発を行う。
- 社会的に重要な子どものための活動は、実績に応じて手厚くサポートする。

《環境・防災分野》

◆アンケートに回答いただいた活動団体数：8団体

活動を通して感じる町の現状

◆住民の高齢化と会員・参加者の減少

- 住民及び団体構成員の高齢化が進んでいる。
- 公園管理人員の不足や不効率な作業工程により、ボランティアへの負担が過大となっている。
- 町の魅力を継承する人がいなくなり、自然が危機的な状況であるとともに近代建築物などの地域資源が消滅している。
- 町内には様々な能力のある人も多いが、その能力が活かされていない。
- 補助金等の縮小による運営資金難に直面。

◆適度な町のスケール感

- コンパクトで住みやすい町と感じている人が多い。
- 町の規模から、お互いの顔が見え、活動を行うことのできる良い環境にある。

◆防災・安全意識が希薄、マナーの低下

- 防災意識が希薄。（震災直後のみ関心が高い）
- 独居老人、弱者、外国人の防災対応に疑問。
- 自転車利用のマナーが気になる。
- 北口商店街は7～9時まで一方通行だが逆走車をよく見かける。
- たばこの吸い殻のポイ捨てが多い。

◆見えない町の将来ビジョン

- 国の目標である2050年カーボンニュートラル実現に対して、町としての対応策が見えない。
- 自然災害への対応は必須だが、その根本原因は地球温暖化であり、持続可能な社会にとって必要な取り組みへ一刻も早く踏み出したい。
- 今一度、行政と町民の協働という視点を取り入れながら、より多くの町民が参加できるように町民活動を展開する必要がある。
- 先住者と移住者が協働できる可能性がありながら、現状維持と変革推進をうまく整理ができず、現状維持を方針としているように感じる。

◆活動の認知度と効果

- 交通安全運動の期間等に、朝、各交差点に立って、交通ルールを指導しているが、概ね守られている。
- 最近、町中で若い人や子ども達の姿、住宅の新築工事を見かけるようになり、誘致活動等の効果として移住者の増加を実感している。あわせて、子ども向けの地域活動や飲食店等も増え、町が活性化していると思う。
- 町との共催による「エコフェスタのみや」も、町民のみなさんに関心を持っていただけるようになってきたと思う。
- 町内美化に関して、清掃を定期的に行っている地区もあり、綺麗な町を目指している様子が窺える。

活動にあたっての課題

◆町の課題とビジョンの明確化

- 環境問題について町民がもっと関心を持ち、環境に負荷がかからない生活を行うことで、将来にわたり安心して健康で暮らしていける町であってほしいと思う。
- 環境にやさしい町づくりにはコストがかかる。適正なコストで町の公共施設から率先して実施するとともに、町民への真摯な説明が必要。
- 住宅地として「安心な環境にやさしいまちづくり」を魅力に結びつけることが重要であり、公共建物は率先して再生可能エネルギーへの置き換えや省エネ化を行い、町としての取り組みを町内外に発信することが必要。
- 今こそ、町の魅力を掘り起し、伝える必要がある。また、町内の人材を活かす場や仕組みが必要。
- 地球環境保全に取り組む町の具体策が見えない。

◆地域活動に対する行政支援・協力

- 町にはさらに情報提供等に力を注いでほしい。
- 専門職のコーディネーターを配置し、町民活動のニーズ把握・情報啓発活動・新規活動の組織作り等、町民の主体的動きが出来るような支援体制を整えてほしい。
- 「町民活動センター」や「ボランティアセンター」を核とし、町民ニーズの把握・情報提供や活動につなげる等のコーディネートや支援。
- 有能なコーディネーターの育成。
- 公園や公共施設の整備・管理。
- 町民の持っている力を発揮できる場の提供や支援体制づくり。
- 規制緩和と情報公開の意思決定の迅速化。
- 若者が参加したくなるような方策を町で考えてほしい。

◆各団体間の横の連携強化

- 同様の活動をしている団体との連携ができる環境整備。
- 有事の際、「公助」を担う常備消防・消防団を中心に、「自助」「共助」とあわせ総合的に対応できる仕組みづくりが必要。
- 地域貢献活動をしている団体をさらに増やし、団体の育成、情報提供・交換等の場を作るとともに、町民への情報提供等を充実する必要がある。
- 各団体の認知度が低い。広報活動に力をいれ、様々な活動団体の情報発信を行うことが大切である。

◆町民の防災・環境意識の向上

- 地区防災は組長だけでなく、一般の方も参加できるようにする。
- 防災意識を各家庭にもっと浸透させる。
- 防災訓練時の安否確認に組長も参加してほしい
- 独居老人や外国人など、弱者の防災意識を高めるような工夫が必要。
- 若年層の防災意識を高めることで、将来の参加（少年少女防災クラブの設立など）を促す事が可能になると考える。
- 町の関係人口を増やし、町内の人材を生かすための情報を相互共有する機会や取り組みをしてほしい。
- 町民へのアピールと人材の確保。

課題解決に向けた具体的な取り組み

◆わかりやすいビジョンの公表

- 「クールチョイス宣言」は町民に浸透していないため、分かり易い標語とする。
- 「2050ゼロカーボンシティ」を宣言し、活動団体や法人、専門家や町民等からなる町民会議を立ち上げて議論を始めてほしい。
- 「気候非常事態」の宣言を。

◆地域活動への町の支援

- インボイス制度の導入に向け、利用料金値上げへの対応をお願いしたい。
- 町担当課との定例打合せを再開してほしい。
- 団体等への公園管理委託など、財政面等の支援の拡充を図ってほしい。
- デジタル化によるデータの一元管理。
- 生涯学習グループと地域政策の社会貢献活動団体を切り離さず、双方の情報を同時に取りやすくする。
- 活動団体が情報共有できる交流会や団体のスキルアップや課題解決となるワークショップを開催。

◆新たな活動のアイデア

- エネルギー問題は町単独では限界があるので、県等との協力の枠組みを作り、国、県の補助金等を活用し、環境、災害等を含めた包括的な政策が必須。湘南電力との共同事業等について具体的提案をしたい。
- エコドライブを推進するため、ニーノとミーヤ入りのステッカーの作成・販売。
- 旧山川秀峰・方夫邸など近代建築物の登録有形文化財化への協力。
- 東大果樹園跡地の将来計画を町民と共に作り上げ、まちづくりの交流拠点としての本格的な取組みに参加したい。
- 安否確認の方法を町内で統一する。（黄色いタオル等）
- 交通安全週間だけでものぼり旗等を立てて、交通安全を浸透させたい。
- 北口商店街等での路上喫煙禁止の取り組みを考えてほしい。
- 再生可能エネルギー創出として、公共施設・個人宅・民間施設の屋根、空き地、農地等が想定され、まず現状把握をして順番に対策を作る。
- 女性防災隊の知名度向上。知名度が上がれば、もう少し違う形で防災指導が可能。
- 町民対象の交通安全関連イベントの再開。
- 青少年ボランティアを募集し、既存団体とのマッチングさせる仕組みを作る。
- NEXCO や JR に絡む案件があり、これらの組織との調整・連携が必要。
- 特に移住者を中心に、消防団のイメージを変えることで、入団意欲を向上させたい。「公助」に対する住民の認識変化をもたらすため、消防団のみならず常備消防を含めた『二宮消防』としての新しいブランドを構築できれば良い。

《産業・経済分野》

◆アンケートに回答いただいた活動団体数：7団体

活動を通して感じる町の現状

◆住民の高齢化と会員・参加者の減少

- 新規就農者や認定農業者が少ない。
- 消費者が高齢化してきている。

◆活動の認知と効果

- 町の自然環境の中でゆったり過ごすライフスタイルや自然食をテーマにした移住者創業が散見される。町の自然環境の強みを生かしたこれらの流れは地域振興策に結びつけられる可能性を感じる。
- 観光に関しては、菜の花ウォッチングが各団体と協力して運営され、地域の協力活動が盛んに行われていると感じる。

◆町のイメージに関わる施策の停滞

- 将来に向けた施策の中で、新庁舎の整備や中小一貫教育の推進が停滞しており、町のイメージダウンにつながる。
- 市場向けの地域振興作物が皆無に等しい。

◆コロナ禍における活動の停滞

- 今年度は、新型コロナの影響で中止になるイベントや会議があり残念。実施できたイベント等では、事業者や参加者が温かく協力的で、人の心の温かい町であることを再認識した。

◆支援制度の評価

- コロナ禍における支援制度は、多くの事業者が活用し高い評価を得た。

活動にあたっての課題

◆地域活動に対する行政支援・協力

- 経営不振や経営者の高齢化・後継者不在等で廃業を検討したいという個人事業主もある。町を支える商工業の発展と廃業を抑制するため、経営改善や事業承継はもとより地域の観光振興策や消費喚起策の措置が必要。
- 新規就農者や定年帰農者等の多様な担い手の育成・確保に向け、行政関係機関も積極的な施策を講じてほしい。
- 耕作放棄地の解消に向けた対策を講じてほしい。
- 有害鳥獣対策補助金の増額をお願いしたい。
- 漁業の現状を知り、もっと協力・援助してほしい。
- コロナの影響の長期化を踏まえ、経営の継続・安定化を図るために有効な支援策を講ずる必要がある。

◆行政及び各団体間の横の連携強化

- 同様の活動をしている団体との連携ができる環境整備。
- 今まで以上に町と組合との連携を取り、消費者・組合員に対してのサポート事業の強化。

◆地域活動の充実・魅力向上

- 湘南オリーブを普及奨励しているが、町の特産物として生産量を確保する必要がある。

◆利用者の理解向上

- 一部の利用者には、高飛車な方も散見され、その理由や原因について解明していかなければいけない。町職員も、そのような方には毅然とした態度で接することも必要と思われる。

課題解決に向けた具体的な取組み

◆地域活動への町の支援

- 創業者を増やす魅力づくりが重要（例えば店舗と住居が一体となった物件の斡旋、同業を集めたビットバレーのような構想、休耕地を活用した農業起業支援、移住者限定の金融支援や税制優遇など）。
- 北口商店会通りを走行する路線バスの運行について、駅北口への出入口を県道71号線二宮駅北口交差点に変更することで、交通安全の課題を解消する。
- 町としてどんな取組みができるのか示してほしい。
- リーダーとなる後継者・人材の育成
- 若者が参加したくなるような方策を町で考えてほしい。

◆活動の連携と情報の共有

- 新規就農者や認定農業者等の増加に向けた情報の共有。
- 新型コロナの心配が薄らいだら、町職員も含め多くの方と交流できるような大規模のイベントがあれば良い。
- 目的を明確にし、各団体の様々な意見を伺い、情報を共有し合う。
- 既存の広告媒体から脱却し、スマホ等による情報発信を実践する。

◆地域活動のPR

- 地域住民に対するイベント等の開催。
- 交流と相互の信頼関係を醸成できる魅力ある場の提供。
- 魅力あるまちづくり、町民に分かりやすい活動内容等の発信。

◆新たな活動のアイデア

- オリーブ生産量拡大の為に休耕町有地の活用の推進。
- 新規消費者が来店しやすい環境作り、新規組合員の増加等、消費者・組合員が笑顔になれるような取組み。
- 活動環境の整備（空き家・空き店舗の有効活用）
- NEXCOと連携し小田原厚木道路から東大果樹園跡地を結び地場産の物品販売を主とした休憩エリアを設置。

《自治体経営分野》

◆アンケートに回答いただいた活動団体数 : 5 団体

活動を通して感じる町の現状

◆適度な町のスケール感

○自治体としてのサイズ感がよく、職員の横の連携もよい。いい意味で職員が町民に近いことが分かった。

◆住民の高齢化と会員・参加者の減少

○会議や集まりの場に参加すると若い方の姿を見かけない。

◆活動の認知と効果

○手話の認知度は高まっていると感じるが、聴覚障がい者への理解がもっとあってほしい。
○「ふるさと祭り」は町最大のイベントと思われるが、町の PR や産物販売の影が薄い。

◆住民・団体の取組み意欲

○若い世代も含め、町民は意外といろいろな考えや思いを持っているが、それを発言する場が少ない。
○町の魅力を引き継ぐ人がいなくなり、自然が危機的な状況であるとともに近代建築物などの地域資源が消滅している。
○町内には様々な能力のある人も多いが、その能力がまちづくりに活かされていない。
○町を良くしようと活動する団体・人は多くいるが、連携が少なく一体感がない。
○町民活動推進の中核であるべき役場の担当者レベルでの対応は丁寧である。
○移住者促進のための「にのみや Life'住みやすいまちづくり」への組織的な取組み意欲がうかがえない。

活動にあたっての課題

◆地域活動に対する行政支援・協力

○一歩踏み込んだ情報提示やアドバイスなど前向きな姿勢が望まれる。
○潜在している町民パワーを掘り起こし、その活用に行政力（町民を動かす影響力）の注入が必要。
○以前に協働まちづくり補助金をいただき活動を立ち上げる足掛かりとなったが、それ以降の支援は少なく、単独での活動には限界を感じている。

◆行政及び各団体間の横の連携強化

○団体ミーティングに職員が参加するなど、行政と団体が同じ場で活動し、一緒につくりあげる関係性を持ちたい。
○「菜の花ウォッチング」は認知度も高まっているが、商工会、農協、漁協と多角的で主催責任者が不明確。出店料無料、会場設備の改善は投資とし観光行政の中核に位置付ける。
○移住希望者が増加傾向にある今、町の存続、発展のためにも行政・商工会・観光協会の強固な協力姿勢が必要。
○団体の連携が町の良い所をアピールでき、課題解決に繋がる。以前組織されていたボランティア連合会＋行政のような組織を形成し、町の良さを活かす活動を盛り上げて行けるように出来ないか。
○町の HP に高山村のバナーがあるが、同村との関係の説明がなく意味合いも不明。友好都市として契約し、町からも高山村に出向いてアピールする、海のない高山村の住民を招待し、景色を堪能してもらうなど積極的に友好関係を築く。
○今後の活動進展が期待される各地域の組織をつなぐ情報ネットワークを町の積極的な関与指導で組織化する。
○行政・団体が相互に一歩踏み込んでいくことが活性化につながるのでは。
○団体活動が、行政とつかず離れず、並走できるようにしていくこと。

◆地域活動の充実・魅力向上

○今こそ、町の魅力を掘り起こし、伝える必要がある。また、町内の人材を活かす場や仕組みが必要。
○団体の活動を町民の皆さんに知ってほしい。

◆住民の理解向上と参加者の拡大

○公共の場で、手話のできる人がもっといると聴覚障がい者は生活しやすくなると思う。
○活動には世代の広がりが重要。
○メンバーの高齢化が進んでいるので、若い方の参加が必要。

◆町の課題とビジョンの明確化

○町の進むべき方向を町民の感覚に強く訴える PR が肝要。

課題解決に向けた具体的な取組み

◆地域活動への町の支援

○町による活動団体間の連携への橋渡し。
○地域政策課にまちづくり相談室的なものと良い。
○活動拠点である町民センターにエレベーターが設置されるなど、すべての人が参加しやすい環境が必要。
○町民センターでの飲食を許可してほしい。（コミュニケーションの活発化）
○活動推進補助金の制度を見直す。クラウドファンディング等の継続支援の方策も検討すべき。

◆活動の連携と情報の共有

○東大果樹園跡地の将来計画を町民と共に作り上げ、まちづくりの交流拠点としての本格的な取組みに参加したい。
○町の関係人口を増やし、町内の人材を生かすための情報を相互共有する機会や取り組みをしてほしい。
○連合会や連絡協議会のような組織を作り、活動状況の共有や意見交換ができるような場をつくる。

◆参加者の拡大

○青少年ボランティアを募集し、既存団体とのマッチングさせる仕組みを作る。
○それらをコーディネートできる人材を職員や町民から育成してほしい。
○ボランティア活動団体（特に町民活動推進補助金受給団体）への取組みを広報や HP に公開するなど、活動応援協力体制をつくる。

◆地域活動の PR

○世代を超えて他人の考えを知ることが大切であり、そのような場を今後も継続していきたい。その際、着地点を決めないことで、ざっくばらんな意見交換が可能になる。
○学校に出向いて聴覚障がいについて理解を深める活動が出来ればと思う。
○小中学生や高校生向けの聴覚障がいについての講座を開く等、子どもや若い人が参加しやすいイベントがあると良い。
○オンラインミーティングのような取組みも試行し、将来的には交換留学のような形で展開できれば良い。
○どんな団体がどんな活動をしているか情報共有できる交流会や団体のスキルアップや課題解決となるワークショップを開催する。

◆新たな活動のアイデア

○旧山川秀峰・方夫邸などの近代建築物の登録有形文化財化への協力をしたい。
○国際人を育てるため国際交流の環境造りの取組みを進める。町内在住の外国人も増加しており、ブラジル・ベラノポリス市との交流を通じてポルトガル語学習など、世界的視野を広げる機会をつくりたい。
○交流を続けてきたベラノポリス市との友好都市締結も良いのではないかと。
○展開中の二宮町中里の Verde 苑を小規模グループの集いの場として進展させたい。
○高齢者の IT 弱者に対し、日常生活への活用を支援する。